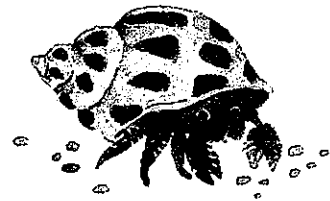


オープン・アカウント

# Open Account

No.20

FNA(エフナ・アジア開発銀行福岡 NGO フォーラム)  
ニュースレター2006年8月号



インタビュー ADBの理想と現実

～CAIN スタッフに聞く

サムット・プラカン問題～・・・P2

ADBと私たち 第2話

アジア開発銀行第30回総会をめぐって・・・P6

FNA2005年度活動報告・・・・・・・・・・P9

講座・イベント情報、書評・・・・・・・・P11

募集・・・・・・・・・・・・・・・・・・P12

## インタビュー | ADB の理想と現実 ～CAIN スタッフに聞くサムットプラカン問題～

今年4月、タイ環境 NGO「CAIN」のコーディネーターである、ペンチョン・セーターンさん、ジャーナリストで CAIN メンバーであるスックラン・ロジアナパイウォンさんが調査と報告会のため福岡を訪れました。

CAIN は、ADB 融資プロジェクトの一つであるサムットプラカン汚水処理工場建設問題において、地域住民を支援した NGO の一つとしても知られています。FNA では、CAIN の活動やサムットプラカン問題への関わり、その経験から得たことなどについて、ペンチョンさんにお話を伺いました。

■CAIN はどのような活動を行っているのですか？

CAIN (Campaign for Alternative Industry Network: 代替産業ネットワークキャンペーン) は、タイのバンコク郊外にあるノンチャプリ地区に事務所を置く NGO です。

CAIN ができたのは、1991年にタイ・クrontoi地区で起きた化学工場爆発事故がきっかけです。事故被災者の救済を目的として、タイでケミカル・キャンペーン・コミティができました。その後、タイ政府が工業化推進していく方針が明確になったため、1997年、ケミカル・キャンペーン・コミティに関わった人々が、化学物質、産業廃棄物、大気汚染などの問題に取り組む NPO として CAIN を再結成しました。

CAIN は、地域住民を支援していくことを活動目的にしています。プロジェクトのモニタリングと調査、住民への情報提供、

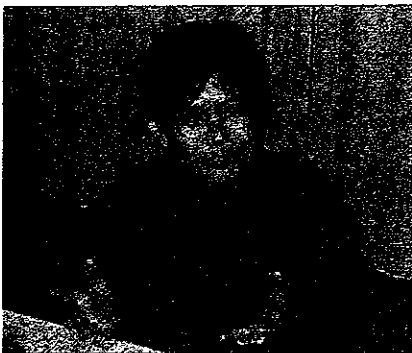
情報公開、住民参加の確保などです。プロジェクトで影響を受けるのは、漁民や農民、工場労働者などの地域住民ですが、政府は彼らに正確な情報提供を行っていません。このことが非常に大きな問題だと考えています。

例えば、政府が電化製品製造工場を建設する計画を発表した時、住民に対し「これは軽工業であり、重化学工業のような汚染はなく、環境にも何ら影響を与えない」と説明していました。しかし実際に工場が建設されると、さまざまな化学物質による汚染が出ることになりました。

地域住民は、プロジェクトが自分たちに何らかの影響を及ぼすかどうか、環境影響はどのようなものかなどを知る手段がありません。CAIN は それらを調査し、ブックレット等で情報提供を行うことが CAIN の活動です。また、今後影響を受けることが予想される人々に対し、すでに影響の出ている地域を訪ね、住民同士が交流するための視察プログラムを行ったりもしています。ジャナ地区のガスパイプライン問題などがそのケースです。こういったことによって、住民は将来自分たちに起こりうる状況をよりイメージしやすくなります。

■CAIN はサムットプラカン問題支援にどのように取り組んだのですか？

CAIN が、クロンダン地区サムットプラカン汚水処理工場建設問題の支援に取り組み始めたのは、2000年5月の ADB チェンマイ総会の数ヶ月前でした。ADB チェ



ペンチョン・セーターンさん

ンマイ総会では、サムットプラカン問題のキャンペーンが最も盛り上がり、マスコミなどにも大きく報道されました。しかし当時 CAIN は、タイ南部や東部で別の活動をしており、また、タイ国内の汚水処理工場に関する政府の委員会にも関わっていたため、活動に余力がありませんでした。

最初に、サムットプラカン問題で影響住民のリーダーであるダワンさんから、NGO へ支援要請がありました。CAIN は、ADB がサムットプラカンプロジェクトの出資者であることに着目し、「ADB 総会はメディアや一般の人にこの問題を伝える好機だ」とアドバイスした。

タイには、NGO-COD という多くの NGO によるネットワーク組織（アンブレラ）があります。NGO-COD では、ADB チェンマイ総会に合わせて NGO フォーラムを開催することに決め、その中で ADB 融資が問題を引き起こしている典型的なケースとして、サムットプラカン汚水処理工場問題を取り上げることにしました。NGO-COD は現地を訪問し、ドキュメンタリービデオや調査資料などを作成しました。

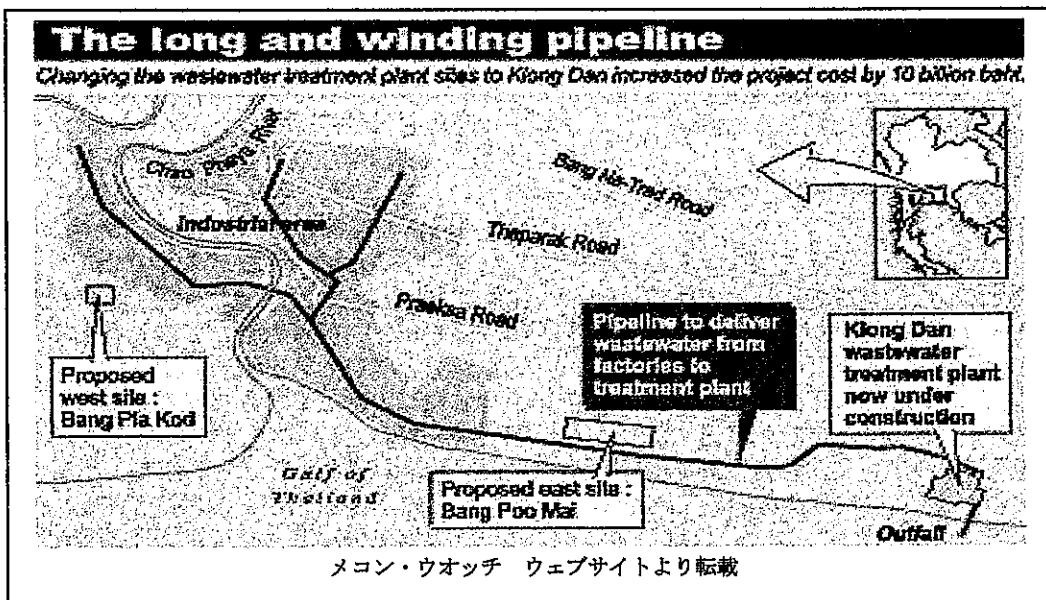
2000 年のチェンマイ総会で、多くのマスコミが注目することとなったが、その後、NGO-COD としてのそういった形での支援は一旦止まりました。一方で、現地

住民のダワンさんたちは、問題が大きくなったことで困難な状況にあった。そのため、現地住民であるダワンさん、CAIN、メコン・ウォッチ、TERRA (Towards Ecological Recovery and Regional Alliance:生態系回復と地域連帯。タイの環境 NGO)、NGO-COD の代表とで、今後どのような取組みをしていくかの会議を重ねました。

CAIN にも全面的なサポートを求められましたが、CAIN 自身のキャパシティの問題から、単独ではなく、少なくとも2つの NGO がサポートに関わってほしいと要望しました。そして複数の NGO が支援のために役割分担することを決め、国際社会へのアピールや翻訳、やりとりなどを TERRA が、地域コミュニティの支援を CAIN が担当することになりました。現地住民のダワンさん、TERRA のティッティ、メコン・ウォッチの土井さん、CAIN の私との間で頻繁にやりとりを行い、ADB や PCD (公害管理局：プロジェクトの事業者) への働きかけを行いました。

現地住民のダワンさんはこの問題に確固たる決意で立ち向かっていました。私たち NGO はすべてダワンさんの意思を尊重し、ダワンさんの希望に添った活動を展開していきました。

CAIN ではサムットプラカンの汚職問題



について、2つの冊子を発行しました。当時、タイの新聞である「プーチャットカン」紙のみが汚職問題を取り上げていましたが、そのプーチャットカン紙の記事や、ダワンさんから得た情報を元に、情報を整理、分析し、200ページにまとめたものでした。この冊子の証言が元となり、ちょうどPCDの時期次期理事長に就任しようとしていた人物が、汚職に関係していることが明るみに出ることにもなりました。

■タイ社会での一般の関心はどのようなものですか？

タイには、南部のプラチュアアップキリカン県の火力発電所問題、ソクラー県ジャナ郡のガスパイプライン建設問題など様々な問題があります。しかし、一般市民や研究者、ジャーナリストはそれほど関心を持っていません。

また一般には、それらの闘いとサムットプラカンの問題とは別だとする考えもありました。サムットプラカンは、情報公開やインスペクション・パネルへの異議申し立てなど、高度な「情報との闘い」だという声があったのですが、実際に現地を知ると、その認識は誤りであると感じました。サムットプラカンでも、日々事業者との間で、緊張した対立がっていました。ただサムットプラカンでは、目の前の問題に対して一つ一つ対処して行ったので、激しい衝突という形にはなりません。プロジェクトをめぐる汚職が明るみに出たため、汚水処理工場の建設は止まりましたが、もしあのまま事業が進んでいたら、激しい衝突という場面もあり得ただろうと思います。

■具体的に日本のNGOはどのような役目を果たしたのですか？

サムットプラカン問題に対するNGOの支援が始まった初期の頃、現地住民のリーダーであるダワンさんがメコン・ウォッチの招待で日本を訪れ、JBICと対話の場を持ちました。JBICは事業への出資者の一つで、ダワンさんはこの時の来日により、汚水処理工場の建設予定地に13の候補地があったという資料を手に入れることができました。

これは、重要なターニングポイントとなりました。それまで、事業者であるPCD側は、建設予定地についての他の候補地についての調査は行っていないと説明していました。ダワンさんは、事業へのその他の出資者である、デンマークの融資機関であるであるダンセット、ADB等にも調査資料の公開を求めていましたが、すべて断られていました。唯一、JBICからのみ資料を出させることに成功したのです。メコン・ウォッチは、情報キャンペーンで特に力を発揮しました。

■それらが証拠となり、ADBへの異議申し立てへつながったわけですね。

当初、ADBは産廃と廃水の処理に関して調査をした結果、いくつかの候補地を提案していました。その結果、チャオプラヤ川河口の両岸の2ヶ所に汚水処理工場を作るという案に対し、ADBは融資を行うことになっていました。しかし実際には、地区から20km離れたクロンダン地区に汚水処理工場を建設する計画へ融資することにすり変わっていました。これは、クロンダン地区の予定地の利権をめぐる汚職が原因でした。

ところが、ADB、JBIC、政府、PCDなどの契約書では、2ヶ所に工場を建設する内容になっていました。汚職によって、実際の計画はこの契約内容とは異なることを彼らは知っていながら、表向きは、実際の計画とは異なる、当初の内容のまま契約していたのです。

ADB職員もこの汚職に関わっていたため、私たちはADBのインスペクション・パネルに異議申し立てを行うことにしました。これも、ダワンさんの意向に従い、それをNGOが支援しました。インスペクション・パネルに訴え、パネルでの審査を適用するかどうかが決まり、調査団が現地に派遣されて、調査報告が出されるまでに、いくつものプロセスを経ました。

地域住民の参加がなかったことも、ADBの規範に反していました。その他、建設予定地が変わったこと、クロンダン地区で生計を立てる人びとへの社会的影響や、移転についての説明、調査、経済効果につ

いて十分な分析がされていなかったこと等も問題でした。事業者はEIA（環境影響調査）を行ったと言っていました。実際には行われていませんでした。しかし、ADBのインスペクション・パネルによる調査報告書では、汚職については何も触れられていませんでした。

■ADBについてどのように考えていますか？

ADBは巨大な融資機関です。数十億ドルもの費用をかけ、森林、鉱山、ガス、石油、ダム、電気事業など、その国の天然資源に関わる巨大プロジェクトを行っています。これらのプロジェクトは、先住民の権利や住民の生活、さらに国境を越えて中国やビルマなどにも直接的な影響を与えます。有害物質、化学物質などもその一例で、健康被害、海や川の汚染を引き起こします。

ADBは、人権や住民参加、グッド・ガバナンス、社会正義、透明性の確保などを表向きにはうたっていますが、実態はまったくかけ離れています。サムットプラカンの事例は、そのことをクリアに示したケースでした。ADBは問題が起きて、自らは何も動きませんでした。

現在、GMS（The Greater Mekong Subregion：大メコン圏）経済協力構想というものが進められています。これは、中国、ラオス、ビルマ、タイ、カンボジア、ベトナムといったメコン川流域における、

ダム建設や導水、電力網、高速道路など基盤整備を行い、地域全体として経済活動を活発化させ、貧困を解消しようとする地域統合プロジェクトです。

GMS構想を牽引しているのはADBで、発電所、道路などの基盤整備には融資も行っています。他の開発機関、世界銀行、JBIC、JICAが資金面・技術面で関与しているほか、民間からの投資も多くあります。

しかし、先住民の権利やどのような社会的、環境的影響が起こるのかについては軽視されています。プロジェクトでは環境配慮や地域住民の参加を確保するというADBの説明は、リップサービスに過ぎないと考えています。サムットプラカンはそのことを分かりやすく示した例の一つだからです。

（2006年4月9日遠賀郡芦屋町にて／取材：土肥、寺嶋）

サムット・プラカン汚水処理プロジェクトについての詳細は、以下のメコン・ウォッチのウェブサイトをご覧ください。

<http://www.mekongwatch.org/env/thailand/samutprakarn/index.html>

注目!?

## ウェブサイト紹介（第二回）

### ★ ウェットランドフォーラム

博多湾人工島に干潟公園を創ろうークロンダン地区と同様に貴重な和白白干潟の再生をめざしてのさまざまな取り組みが企画されています。

<http://homepage3.nifty.com/wetlandforum/index.html>



私  
たち  
と  
ち

前号から、FNA の活動を振り返りつつ、ADB 2007 年京都総会に向けてなんらかのメッセージを発信するためにこの企画を始めました。今回は FNA 設立のきっかけとなった福岡総会と、それに対する取り組みについてまとめました。

## 第 2 話

### アジア開発銀行 第 30 回福岡総会をめぐって

福岡でアジア開発銀行 (ADB) 第 30 回総会が開催されたのは、1997 年 5 月でした。ここでは、福岡の NGO が国際会議に対してどのように取り組んだのか、どのような成果を挙げたのか、反省すべき点はなかったのか、以上の点を整理してみたいと思います。さらに今の時点から振り返ると、福岡総会頃を境に、国際会議と NGO との関係も大きく変化しているように思います。したがって、福岡総会について考えるときには、国際会議への NGO の取り組み方がどのように変化していたのかということを念頭に置く必要があります。

まず第一に、90 年代中頃、NGO が国際会議に実質的に影響力を行使する方法が新たに模索されるようになりました。1992 年地球環境サミットのときに多くの NGO が現地でサミットと平行して会議を開催し環境問題をアピールしましたが、1999 年にシアトルで開催された WTO 会議では会議そのものの開催阻止が目標となり、実際に流会しました。90 年代、国際会議への参

加か、国際会議の阻止か、NGO の行動のあり方が問われるようになっていました。

第二に、福岡総会の 2 ヶ月後、1997 年 7 月にタイ・バーツは引き下げを余儀なくされて、アジア経済危機が始まりました。これ以降、グローバリゼーションの影の側面がクローズアップされることになりながら、福岡総会は反グローバリゼーションが高まる直前だったということになります。

#### (1) ADB 総会福岡 NGO フォーラムの設立

ADB 福岡総会の開催が決まっているとしても、自動的に NGO としての取り組みが誕生するわけではありません。第一に、福岡には、93 年に設立された NGO 福岡ネットワークという組織が存在していましたから、これが地元組織の母胎となって、96 年 7 月に ADB 総会福岡 NGO フォーラムが設立されました。第二に、ナショナルなレベルで福岡総会へ対応するために、90 年代初頭から活動していた ADB 総会東京 NGO フォーラム、96 年末に設立された ADB 総会関西 NGO フォーラムが協力して、ADB 総会 NGO フォーラムが組織されました。これらを構成する NGO は、ADB に関連する問題に取り組んできた政策提言型 NGO です。たとえば東京 NGO フォーラムは、「環境・持続社会」研究センター、地球の友 (現

在は FoE・Japan)、熱帯林行動ネットワーク、メコン・ウォッチなどでした。第三に、ADB に関する NGO 連絡評議会という ADB 加盟国の NGO の連合体(21カ国112 団体が加盟)との協力関係も存在していました。福岡の NGO グループは、ADB 総会福岡 NGO フォーラムを結成するとともに、国内外の NGO と連携し、情報交換しながら、福岡総会への対応を準備したわけです。

同時に、福岡 NGO フォーラムのメンバーは、96 年にマニラで開催された ADB マニラ総会に参加して翌年の福岡総会のために視察したり、福岡で開催された全国規模の NGO 会議、先住民族関連 NGO 会議福岡集会や NGO ネットワーク総会などに企画段階からかかわり、大規模な会議運営のノウハウを蓄積しました。

## (2) 市民の取り組み

ADB 総会福岡 NGO フォーラムでは、何度となく実行委員会を開催するとともに、単独あるいは他団体との共催で、シンポジウムや講演会などを開催しました。これらの企画は、ADB による大規模開発がアジア

地域に何をもたらしているか、広く市民に知ってもらえる機会になり、メンバーでも ADB 総会について認識を深め、情報を共有する機会にもなりました。地元福岡では博多湾埋め立てが巨大開発のひとつとして問題になっていましたから、内外の NGO メンバーと研修小旅行を行って、国内の開発問題に取り組む人びとと海外の開発問題に取り組む人びとのあいだの交流を図りました。ADB 総会福岡 NGO フォーラムは、福岡総会開催に合わせて、開発と環境を考える市民フォーラム、開発と先住民族についての講演会などを開催して、広く市民に情報を提供するように努めました。また、内外の NGO による討論会を開催して、情報交換もおこなわれました。同時に、マスコミの取材を受けたり、総会直前には、プレス・パケットを作成して、マスコミ関係者に配布し、NGO から見た ADB の活動やその問題点についての情報をマスコミに提供しました。

## (3) ADB 総会と NGO

福岡総会の前年、フィリピンで開催され



た ADB マニラ総会のときに、日本の NGO の一部に通行許可証が発行されないという問題が起きました。NGO は、自国政府から通行許可証を取得して、ADB 総会にオブザーバーとして参加するとともに、ADB スタッフや各国代表団と会合をおこない、意見を表明することができます。92 年の地球サミット以後、国際会議に NGO が参加するということが常態化しつつありましたので、マニラ総会の際に通行許可証の発行が一部であれ拒否されたことは驚きでした。

さすがに福岡総会ではそのようなことはありませんでした。というのも、秋葉忠利衆議院議員（現在は広島市長）が国会質問に立ち、榊原英資大蔵省国際局長（現在は、慶応大学教員）が答弁の中で、福岡総会では NGO 参加を確保すること、大蔵省（現在は財務省）と NGO との相互理解を深めるために定期協議を発足させることなどを言明したからです（ちなみに、この定期協議は現在に至るまで開催されています）。しかし、問題は、ADB 福岡総会において、NGO は、ADB に対してどのような働きかけを実施して、どのような成果を収めたのかという点にあります。実は 2000 年、タイのチェンマイで開催された ADB 第 33 回総会のときに、ADB が融資したサムット・プラカン汚水処理プロジェクトによって環境悪化・生活破壊を懸念して、200 名の住民が 1000 キロ離れたチェンマイまでやってきて抗議しました。単に NGO によるロビーイングではなく、まったく異なる手法で ADB に働きかけるということが試みられたわけですが、通行許可証が発行されるかどうかという問題とはまったく違うレベルで、ADB に働きかける手法が実行に移されたわけです。97 年に起きたアジア経済危機以後、

グローバリゼーションを推進する国際会議に対する反発が広がっていましたから、ADB 総会への働きかけでも、大衆行動によって国際会議に影響力を行使しようとする行動様式が模倣されたのだと思います。

では、福岡総会ときには、どうだったのでしょうか。96 年通行許可証発行が問題化したマニラ総会、大衆行動を背景にして ADB に働きかけた 2000 年のチェンマイ総会のあいだにあって、ADB 福岡総会では、ADB への働きかけの方法は、まだ模索の途上でした。もちろん、現在でも、ADB への働きかけの方法に「唯一の方法」があるわけではありません。通行許可証問題を越えて、実質的に ADB に働きかけるにはどうしたらいいのか、検討が求められています。

#### （４）その後

ADB 福岡 NGO フォーラムは、福岡総会開催をきっかけに結成され、内外の NGO と協力して、ADB の活動とその問題点を明らかにするように活動しました。ADB 福岡 NGO フォーラムは、その準備の過程で、ADB の融資による開発をはじめとする巨大開発の問題点について、広く市民に情報を提供するとともに、メンバー自身も認識を深めることができました。その後も、フィリピンへの調査・研修旅行を企画実施したり、国内の開発問題にも目を向けるなど、活動を継続しながら、内外の巨大開発問題について福岡において情報発信する活動を行っています。このような活動は、なによりも、ADB 福岡総会への対応をきっかけにしたものであり、ADB 福岡総会に対して働きかけた NGO 活動の最大の成果だろうと思います。

（木原滋哉）



# FNA 2005年度 活動報告

2005年度の活動報告です。とても地味な1年でしたが、改めて振り返るとそれなりの積み重ねがありました。

## 1) 小冊子作成

- ・小冊子委員会 9回

## 2) 勉強会、講演会の開催

- ・05年9月 FNA 学習会「97年ADB福岡総会を振り返る」(担当 楠原、会場 あすみん)
- ・05年11月 FNA 学習会「アジアの開発現場を歩いてーフィリピン、タイ、インドネシアと私たちー」(講師 木原さん、会場 あすみん)
- ・06年4月 シンポジウム「Think globally, Act locally～市民の手による環境再生ー福岡市とタイでの経験をもとに」(FNA・ジュピリー九州共催) (午前 人工島・和白干潟見学、午後 シンポジウム 会場 あすみん)

## 3) 会員および一般の方への情報提供

- ・05年6月 FNA 総会
- ・05年6月 オープンアカウント18号 発行
- ・05年11月 オープンアカウント19号 発行
- ・05年6月 海外からの問い合わせ対応、資料送付(ドイツより)

## 4) 新会員の獲得

- ・05年7月 連絡して下さった方と面談
- ・05年11月 FNA 学習会「アジアの開発現場を歩いてーフィリピン、タイ、インドネシアと私たちー」(講師 木原さん、会場 あすみん)

## 5) 「まつり」への参加

- ・05年10月 地球市民どんたく(会場 ベイサイドプレイス博多)(実行委員会4回)
- ・05年10月 地球市民どんたくセミナー(会場 ベイサイドプレイス博多)(企画会議8回)
- ・05年10月 ハートフルフェスタ(会場 博多リバレイン)(参加団体連絡会議1回)
- ・05年11月 あすばるフェスタ(会場 クローバープラザ)(参加団体連絡会議2回)

## 6) 他団体とのネットワーク強化

- ・ 05年11月 FUNN政策提言委員会主催学習会「現場で政策提言活動を行うには？」講師 FoE Japan 波多江秀江さん) 参加
- ・ 05年12月 シンポジウム「河川管理と住民参加」(大阪、日弁連等主催) 参加
- ・ 05年12月 シンポジウム「長良川河口堰の10年を振り返る」(名古屋) 参加
- ・ 06年2月 日米ダム撤去委員会第2回国際会議(東京) 参加
- ・ 06年4月 Penchom Saetang さん(タイ NGO CAIN 所属) インタビュー
- ・ 民芸品の購入による協力(ルンアルンプロジェクト、タイ山岳民族奨学基金プロジェクト、パートナーファンプロジェクト)
- ・ イベント協力(地球市民どんたく参加団体、くるんて〜ぶの会など)

## 7) 定期協議・各種会合

- ・ 05年6月 水郷水都全国会議(会場 久留米大学)
- ・ 05年10月 第30回 財務省・NGO 定期協議(東京)
- ・ 05年11月 RWESA (Rivers Watch East & Southeast Asia /東・東南アジア河川ウォッチ) 総会(カンボジア)
- ・ 06年5月 ADB 年次総会(インド ハイデラバード)

## 8) 運営委員会

- ・ 運営委員会 7回

## 申し入れ書への賛同

- ・ 05年7月(個人賛同の呼びかけ)「人工島ウェットランド署名」(福岡市あて、とりまとめウェットランドフォーラム)
- ・ 05年9月「日本政府に対して、カンボジア政府による NGO 職員入国禁止措置などに対応を求める要請書」(とりまとめ メコン・ウォッチ)
- ・ 05年11月「IFC(国際金融公社)のセーフガード政策見直しプロセスに対する要望書」(とりまとめ FoE Japan)
- ・ 06年2月「フィリピン・サンロケ多目的ダム事業 灌漑部門(アグノ川統合灌漑事業)に関する日本政府、国際協力銀行への要請書」(とりまとめ FoE Japan)
- ・ 06年3月「タスマニア州政府とガンズ社によるタスマニアの森林、自然、野生生物の破壊についてオーストラリア政府への賛同署名」(とりまとめ レインフォレスト・アクション・ネットワーク)
- ・ 06年3月(個人賛同の呼びかけ)サハリン開発・国際協力銀行に適切な対応を求めるレター(とりまとめ FoE Japan)

## 講座・イベント情報

### ■NGO 福岡ネットワーク主催事業

国際協力・NGOで働きたい人のための研修プログラム

2006年9月30日～2007年3月3日

1: スタッフ研修コース (12万円/10名)

2: ボランティア研修コース (5万円/10名)

研修プログラム説明会

日時: 8月26日(土)17:15～18:45

場所: 福岡市NPOボランティア交流センターあすみん

詳しくはFUNN HPへ!

<http://funn.npgo.jp/activity/ninaite2.html>

### ■恒例 秋のイベント

・地球市民どんたく2006

9月16日(土)17日(日)11時～19時

会場 福岡市役所西側ふれあい広場

・ハートフルフェスタ2006

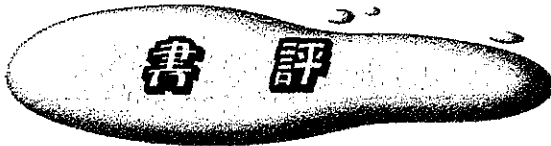
10月15日(日)11時～18時

会場 博多リバレイン

・あすばるフェスタ2006

11月25日(土)26日(日)10時～16時

会場 クローバープラザ(春日市JR春日駅前)



### 『「水」戦争の世紀』

モード・バーロウ、トニー・クラーク著 (鈴木主税訳)

集英社新書 (2003-11-19 出版) ISBN:4087202186 販売価:¥798(税込)

本書は、われわれが日頃利用している水、淡水が世界規模でいかに「商品化」されているか、ビジネスとして成立しつつあるかという実態を明らかにしたものである。

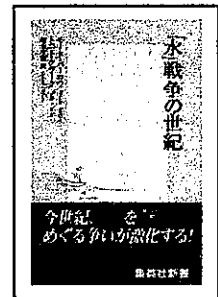
今日、有害物質の排出による汚染、過度の灌漑などによって、資源としての淡水が枯渇しつつあることはしばしば指摘されている。しかし、見逃すことができないのは、水の「商品化」の進展である。WTO(世界貿易機関)やIMF(国際通貨基金)らの金融機関が多国籍企業を支援する形で、第三世界を中心とした諸国の水道事業の民営化、ダム開発を推進し、それは住民の生きる権

利としての水へのアクセスを歪め、水を「市場」原理に組み込むことにもなる。

筆者らは、これらの開発に対抗する運動や、「水」を保全し、再生するためのあり方を論じ、社会のコモンズ(共有財産)としての水の意味を問い直している。

本書は、「水」という具体的な観点から、グローバル経済と第三世界の開発、公営事業との関連を明らかにした点で有益であり、その具体的提言は、傾聴に値する。

注: 以前「BLUE GOLD 独占される水資源」(モード・バーロウ著、翻訳・発行 市民フォーラム 2001)をご紹介しましたが、「独占される水資源」は絶版となっています。『「水」戦争の世紀』は一般の書店で購入可能です。



# 募 集

## イベントボランティアさん求む！

9月・10月・11月、FNAはイベントにブース出展します。(下記)

お手伝いして下さる方、大募集！ 内容・ブースでの民芸品販売  
1時間だけでも結構です。お知り合いの方にもお声をかけてください。

### 出展予定イベント

- ・9月16日(土)・17日(日) 地球市民どんたく 2006  
会場 福岡市役所西側ふれあい広場 11:00~19:00
- ・10月15日(日) ハートフルフェスタ 2006  
会場 博多リバレイン 11:00~18:00
- ・11月25日(土) 26日(日) あすばるフェスタ 2006  
会場 クローバープラザ(春日市 JR春日駅前) 10:00~16:00

### Q：FNAってどんなNGO？

A：FNA(エフナ、アジア開発銀行福岡 NGO フォーラム)は、アジア開発銀行(ADB)によって行われる開発をモニタリングし、政策提言を行うNGOです。

お申し込み・お問い合わせ・ご連絡は下記までお願いします。

〒810-0041 福岡市中央区大名2-6-46 福岡市立青年センター5階  
福岡市NPO・ボランティア交流センター(愛称あすみん) 気付 連絡ボックスNo.24 FNA 行  
(郵便物には必ず「連絡ボックスNo.24」を明記してください)

電話・ファクス：092-920-1873

(電話は留守番電話になっています。ご用件を録音してください)

Eメール fna@minos.ocn.ne.jp

URL <http://fna.nngo.jp/> (<http://www.geocities.jp/fnafukuoka/>)

\*会員募集中！ 年会費(1口)・正会員5000円・学生会員3000円・購読会員2000円  
入会を希望される方は、氏名・住所・連絡先(電話・ファクス・Eメールアドレスなど)を事務局  
にご連絡ください。FNAの郵便振替用紙をご利用いただく場合、手数料は無料です。

### 編集後記

再び編集者が交代しました。20号のお届けがまたもや遅くなり、大変申し訳ありません。記事について、またFNAの活動についてのご感想・ご要望など、なんでもお聞かせ下さい。投稿・イラスト・情報などもお待ちしております。